



かけはし通信

新紺屋小学校
〒400-0016
甲府市武田一丁目3-34
Tel:252-2578
発行 中込ひかり

本校の全国学力学習状況調査の結果をお知らせします

今年度は、4月18日（木）に全国学力学習状況調査が行われました。この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題、生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善に役立てることを目的としています。本年度の結果について、県や市の教育委員会による指導をもとに分析を行いました。その結果の概要をお知らせいたします。なお、調査に参加した6年生一人一人には、個別懇談などを利用して、個人票をもとに説明していく予定です。よろしく願いいたします。

< 調査内容 >

- 教科に関する調査 「国語」「算数」
- 生活習慣や意識などに関する調査 「児童質問紙調査」

< 分析結果の概要 >

1 本校の状況

教科に関する調査の平均正答率で見た本校の結果は、国語・算数ともに、全国平均・県平均を大きく上回る結果となった。しかし、正答率が低い問題も見られたので、分析を行い今後の指導に生かしていく。

2 教科に関わる課題とその改善に向けての取組

【国語】

① 本校の課題

問題別正答率を見ると、ほとんどの設問で全国や県より優位が認められ、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題では正解率が高かった。その中で、本校の正答率が低かった問題は「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」の2つの問題であった。

② 改善に向けての取組

- 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」では、
 - ・内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっている

か、事実と感想、意見とを区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの使い方は適切かといったことなどを観点として、言語活動を工夫して指導することが重要である。

○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」では、

- ・日常的に用いる文章において漢字の表記を進んで行い、同音異義語についての習得を行う。キーボードでの打ち込みが多用化されてきている今日、手書きで漢字を表記することを疎かにせず、丁寧に指導する。漢字の反復練習にとどまらず、読書の励行から広く語彙の知識を身につけさせることが必要である。

【算数】

① 本校の課題

問題別正答率を見ると、多くの設問で全国や県を上回っているが、下回っている問題もあった。「折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く」と「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」「直径 22 cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」問題の正解率が低かった。

② 改善に向けての取組

○「折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く」と「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」では、

- ・選んだわけを言葉や数を使って書くという設問では、答えの正解を導くだけにとどまらず、過程を文章で表記することが必要である。自分の言葉で表記させる活動を行い、さらに添削することで説明に必要な言葉を選んだり導き出したりする力を育てる。

○「直径 22cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」では、

- ・直径と球という問題から円周率が必要と短絡的に判断するのではなく、目的に合った数の処理の仕方を考察させる。深い理解を伴う知識を習得させる。

3 児童質問紙調査の結果について

【特に良かった点】

○「朝食を毎朝食べていますか」について「している」と答えた児童が多く、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」については「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童が多く、全国や県を上回る結果となっている。望ましい生活習慣が身に付いている児童が多いといえる。

○「新聞を読んでいますか。」については、「ほぼ毎日読んでいる」「週に 1～3 回読んでいる」「月に 1～3 回読んでいる」と答えた児童が多く、約半数の児童が新聞に親しんでいるといえる。

- 「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)」については、「200冊以上」「500冊以上」と答えた児童が多く、家庭においても活字に親しめる環境が整っていることが伺える。
- 「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」と「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」については、それぞれ多くの児童が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。」と答えていることから、あきらめずに最後まで取り組もうとする姿勢が読みとれる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」と「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童がほとんどであった。児童が学級生活について前向きに取り組んでいることが分かる。
- 「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。」では、「とてもそう思う」と答えた児童が、全国や県を上回る結果となっている。PCを活用する習慣がついていることが分かる。

【課題と考えられる点】

- 「将来の夢や目標を持っていますか。」「学校に行くのは楽しいと思いますか。」について、肯定的な答えが、全国や県と比べるとやや低かったことが挙げられる。生活についての喜びや将来に対しての希望をもつためには、振り返りの中での達成感をもつことが必要であると考えられる。自分では気付けない自分のよさや能力等について、教師や友達から認められ、実感できる経験を増やしていきたい。また、児童が主体となった活動も重要であると考えられる。発案から計画、活動まで自主的に行うことは、生活に対する意欲を高め、よりよい人間関係を築くことにつながると考える。各教科や特別活動のさまざまな場面で主体的な活動を取り入れていくことが必要である。
- 「国語・算数・理科・英語の勉強は好きですか。」について、肯定的な答えが、全国や県と比べるとやや低かったことが挙げられる。しかし、その後続く「勉強は大切だと思いますか。」「授業の内容はよく分かりますか。」「学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。」など、各教科の学習に対する姿勢や意識を問う設問については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が多い結果となった。好きではなくとも学習に対しての必要性は感じているといえる。学習をしなければいけないという気持ちが先行しているとも考えられることから、児童の興味や関心を引き出す学習活動の充実が求められる。個別最適な学習活動の充実を図ることで、学習に対して主体的に取り組む姿勢を育てていく必要がある。



以上、本年度の本校の「全国学力・学習状況調査」の概要についてお知らせをさせていただきました。

昨年度も言いましたが、児童の学力定着は、6学年のみのものではなく、1学年からの積み上げです。ですので、本校の子どもたちの傾向を全教職員で共有し、今後も、児童の学力向上に向け、また望ましい生活習慣づくりに向け、教職員一同で努力していきたいと思います。

ご家庭や地域の皆様にもご協力いただくことがありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

